

III 症状ごとの対応

1. 発熱



まず、知っておいてほしいこと



高熱だけが原因で脳が障害を受けるとい
ことはありません。



解熱剤は病気を治す薬ではありません。



熱の推移ばかりに気を取られると、
重要な症状を見落とすことがあります。

最初に書いた「お医者さんに行く前に」の項目をよくチェック
することが大切です。▶2ページへ



ただし、生まれてすぐの赤ちゃんの
高熱は要注意!!

生後3か月未満の赤ちゃんでは、ふつうあま
り熱が出ることはありません。高熱が出たら、
早めに病院へつれて行ってください。



家庭での対処方法

- 熱の状態と熱以外の症状をよく観察してください。
食欲があるか・息苦しさはないか・意識はあるか・機嫌はどうか・
よく眠れるか など
- 悪寒やふるえがでたら、全身を保温してください。
- 水分の補給はしっかりと行ってください。
イオン飲料・湯冷まし・麦茶 など
- 汗が多く出る時は、ぬるま湯で絞った
タオルなどで体を拭いたり、着替えさ
せてください。また、熱いところは氷
枕などで冷やし、冷たいところは布団
を1枚多くするなどして保温してくだ
さい。
※なお、特にちいさな子どもは、毛布などで
くるんで暖めすぎないように注意してくだ
さい。



注意すること

- ❗ 高熱の時に、強い熱さましなどで無理に熱を下げ
るのは好ましくありません。病気によっては有害
な時もあります。主治医と相談して使いましょう。
- ❗ 水分の補給は重要ですが、母乳やミルク、食事は
欲しがらなければ無理に与えなくても大丈夫です。
また、与えるときは、消化のよい物（おかゆ、果
物のすりおろしなど）を与えてください。